

## 澤田美喜展の総括

\* 山口 由紀子・曾根田 貴子

### 1. はじめに

大磯は、近代以降多くの政財界人や文化人たちが住居とした歴史を有する、由緒ある町として全国的に周知されている。そのため、当館における企画展のテーマとして、大磯の歴史に関連する人物を求める声が多い。こうした声に応えるべく、平成23年度秋季企画展では、エリザベス・サンダース・ホーム開設者として知られ、没後30年以上経った現在もテレビ番組等で取り上げられるなど、若い世代からの関心も高い「澤田美喜」をテーマとして取り上げた。

### 2. 展示構成と動線の工夫

企画展示室入り口前のスペースに、澤田美喜の生涯を掻い摘んで紹介したムービー（約5分間）を会期中放映した。当館では過去にも企画展において他機関から借用した映像を放映したことがあるが、今回は職員が映像を制作し、ナレーションには大磯町内の「録音ボランティア・ひびき」に担当していただいた。本展でしか見られない、澤田美喜の肉声や知られざる写真などが挿入された貴重な映像であり、非常に好評を博した。展示への導入方法として、また、限られたスペースにおける展示の補助的役割として、映像は効果的であったといえよう。

①「グローバルな視点」、②「生命の尊厳の哲学」、③「平和創造の行動力」、これらを展示の三本柱と位置付け、三つのセクションに分割し、各々バナーで企画展示室を仕切り、右回りに展開した。セクションのタイトルや写真、解説を掲載した大きなバナーは非常に目を引き、来館者を①→②→③と導くことで、澤田美喜の人生をステップを踏むように、進むごとに理解を深めることができるよう努めた。

「澤田美喜—人生はどんな色にでも塗り替えられるキャンバース—」映像

方向性、文章の統一、分かりやすさ、時間、語尾・語彙をかために。全体的にはトーン抑え目に

「この映像は3分です」DVD添付裏

ナレーション：

澤田美喜。

三菱財閥岩崎家に生まれ、初代国連大使澤田廉三の妻となり、戦後、進駐軍兵士と日本人女性の間に生まれた混血孤児を救済・教育した女性。

本展では、「グローバルな視点」・「生命尊厳の哲学」・「平和創造の行動力」の3つのテーマから、澤田美喜を突き動かした原動力に迫る。

昭和20年、終戦を迎えた日本で、美喜は悲惨な状況を度々目にした。道端に捨てられる子どもたち。中でも、進駐軍兵士と日本人女性の間に生まれた混血児たちが棄てられる事件が日常的におきていた。

ある日、混雑した電車に乗っていると、網棚から荷物が膝に落ちてきた。憲兵の命令で、包みを開くと、なんと生まれたばかりの肌が黒い赤ん坊の遺体が新聞紙にくるまっていた。この出来事が美喜の人生を一変させた。

「一度でもこの恵まれぬ子の母親と疑われたならば、多くのこの子とおなじ境遇の子どもたちの母になれぬものか」。(澤田美喜 8秒)

昭和23年、澤田美喜は混血孤児のための孤児院「エリザベス・サンダース・ホーム」を設立することを決意した。

何不自由なく幸せに育った活発な少女は、外国暮らしに憧れ、外交官の澤田廉三と結婚。その後も、常に向上心を持ち続けた。パリでは、女流画家のマリー・ローランサンに絵画の手ほどきを受け、ロンドンでは、シェイクスピア俳優に師事し、演劇も極める。華やかな生活を謳歌し、国際スタンダードを身に付けた。

恵まれた生活の反面、美喜は、本当の幸福とは何かということに、思い悩むようになっていった。キリスト教の奉仕活動、中でもイギリスの孤児院で奉仕する中で、「幸せ」とは、与えられるものではなく、与えるものであるということに気付いたのだ。

エリザベス・サンダース・ホームは設立されたが、美喜は多くの困難に直面した。海外生活の中で育んだ友情のグローバル・ネットワークが、支援の原動力となった。ホーム運営の資金集めのため、ジョセフィン・ベーカーは訪日公演を行っている。ノーベル文学賞受賞者のパール・バックも、養子斡旋事業についての具体的なアドバイスを提供した。元駐日米国大使ジョセフ・グルーや、清里の父と呼ばれるポール・ラッシュも陰になり日向になり経営をサポートした。また、日本の著名な実業家たちも、混血孤児たちが通える学校の設立に賛同し、多くの寄付を寄せた。

美喜は、エリザベス・サンダース・ホームへの資金を募るため、世界中を飛び回り、講演を各地で行った。その合間を縫って、ホームから養子にいったおよそ500組もの子どもたちの家庭を訪れ安否を気遣ったのだ。ブラジルに聖ステパノ農園を開拓したのも、ホームで成長した子供たちの将来を見据えたからだ。海外への講演旅行や視察旅行は、およそ20年もの間、精力的に行われた。

平和創造を願う美喜の功績は、日本だけでなく世界中から称賛の声が寄せられ、国際的な賞を数多く受賞した。死後、大磯名誉町民の称号を与えられた。

彼女の人生は、どんな障害にも負けず、正義のため、子供たちのために奔走したダイナミックなものだった。

(肉声テープ再生・字幕)

(字幕：昭和55年 スペインマジョルカ島で客死 享年78歳)

(\* 当館学芸員)

＜感想・意見＞ 集計アンケート総数 126 通  
(原文のまま掲載)

展示内容 本展では澤田美喜という一人の女性を紹介するにあたり、展示のイントロダクションとして人生を紹介するビデオを放映した。まとまっていて分かりやすい、という声もある反面、子どもたちの足跡や視点への言及を求める声やビデオ音量に対する苦言もあった。

- ・ 大磯町民となり 4 年、今回初めて来館。澤田美喜さんの多才と信念・行動力に感動いたしました。世界の人脈、財力を活かして、人類平和への貢献。このような展示が大磯で初めてということにも、おどろきです。生命尊厳をアピールされていることに感動いたしました。ありがとうございます。(大磯町、女性 56 歳、来館初)
- ・ 尊敬する澤田美喜さんの足跡をたずね今回の展示会に 2 回まいりました。「グローバルな視点」「生命尊厳の哲学」「平和創造の行動力」3つの視座、本当の幸福深く考えさせられました。信仰を持って、歩む生涯、ダイナミックな生き方、かくありたいと思われました。(藤沢市、女性 60 歳、来館 5 回)
- ・ エリザベス・サンダース・ホームと沢田美喜さんの事はお話として聞いていましたが始めて、この様な物を見せて頂き沢田さんの生命尊厳の考えとグローバルな行動に大変感動致しました。すばらしい企画をして頂き大変にありがとうございました。(平塚市、女性 60 歳、来館初)
- ・ 大変素晴らしい内容で感動しました。資料も豊富でよく収集したと感心。ビデオもよくまとめられており、わかりやすかった。歴史の底にうもれていた。日本女性の驚嘆すべき業績をよく公開してくれた。次の企画も楽しみです。(藤沢市、女性 61 歳)
- ・ 足跡は理解しますが、施設はその後どの様な形になっているか不明。施設を卒業したたくさんの方からどのような評価気持ちが伝えてやれているのか不明。(川崎市、男性 64 歳、来館初)
- ・ 澤田ミキ展なので仕方がないのかもしれないが、サンダースホームの子供たちの視点が少な過ぎる。子供たちはどう成長し、幸福な人生を送ったのだろうか？(二宮町、男性 70 歳、来館 3 回以上)
- ・ エリザベス・サンダース・ホーム設立者の澤田美喜の人柄を知る上で大変興味深い企画です。残念なのは、資料展示室横の廊下でのビデオの音量が絶え間なく流れ続けて資料を読む集中力に少し苦痛を感じました。ビデオの場所は適当でしょうか？(秦野市、女性 62 歳、来館初)

広報 神奈川新聞・朝日新聞・毎日新聞・読売新聞や、タウン誌の各誌に取り上げられ、反響も大きかった。

- ・ 毎日新聞で展示を知り参りました。昨年大河ドラマ「龍馬伝」で岩崎弥太郎に興味をもち、その孫の美喜

さんがこんなにも素晴らしい活動をされたことにただただ感銘を受けました。孤児院運営によって多くの人々に勇気と幸せを与え続けた人生に感服しました。

「幸せは与えるものでなく、与えるもの」を実践したお姿に感動しました。(横浜市、女性 34 歳、来館初)

- ・ 新聞記事で開催を知りました。もっと多くの方へ PR され見ていただけたらよいと思いました。(横須賀市、女性 61 歳、来館初)
- ・ 12 月 1 日付「毎日新聞」で知りました。美喜さんとは生前、取材で直接お会いしたこともあり新聞の記事にしたこともあります。サンダースホームは 3 回ほど訪問。鯛さんとお会い、美喜さん肉筆の手紙を贈ったこともあります。懐かしくて訪問しました。(横浜市、男性 77 歳、来館初)
- ・ 新聞で開催を知り、来館しました。中学生位の時初めて TV で沢田さんの事を知り本も読ませていただきました。同じ女性として母となった今、改めて活動されてきた事の偉大さを感じます。日々の生活に理由づけ行動しない自分が恥かしくなりました。お金でかえない幸せ、人に与えることで得られる幸せ～強い思いと行動力が運んでくるのですね。一人を幸せにすることが世界平和へつながる大切に使いたいです。(藤沢市、女性 46 歳、来館初)

総括 本展をきっかけに、澤田美喜についてより深く知ることができた、という声が圧倒的に多かった。また、澤田美喜展を待ち望んでいた方も多く、継続的な展示を求める声も少なくない。澤田美喜に対する関心の高さが没後 30 年以上経った今日においてもうかがえる。

- ・ 大磯町の歴史に興味を持ったので、今回初めて訪問したのですが、この企画展でさらに澤田美喜という人物に興味を持つことができました。写真や多くの展示物によって、澤田美喜の取り組みや生活を、よりリアルに見せていただきことができ、本当に勉強になりました。また、澤田美喜の生き方にとっても感銘を受けました。(小田原市、女性、来館初)
- ・ なかなか感動させられる企画展でした。よく彼女の事は有名なのに知らなかったけれど、こんなことが出来たなんて町民としてほこりに思います。時々別の角度でやって欲しい。[ビデオや本など] (大磯町、女性 50 歳、来館 3 回以上)
- ・ スバラシイの一言です。よくここまで企画されたと思います。「沢田美喜」名前は知っていましたが、今回本当に良くわかりました。勇気と希望を頂きました。ありがとうございます。昨年も初めて来館致しましたが、今後も楽しみです。企画、立案、又、ここまでスバラシク見せて頂いたことに感謝です。資料館の皆様、本当にありがとうございました。(茅ヶ崎市、女性 61 歳、来館 2 回)
- ・ サンフランシスコの叔母宅にエリザベス・サンダー

ス・ホームから昭和32年に引き取られた従兄がいます。祖母が日本に来て、一年後に飛行機に1人で乗ってアメリカに行ったと聞いています。また、こういう企画があったら訪れたいです。(小田原市、女性57歳、来館初)

- ・サンダースホームを駅を降りる度に見ながら沢田美喜の実際の活動をほとんど知らなかったが、この展示を見て感動した。サンダースホームの記念館に常設されればと思う。(大磯町、男性72歳、来館3回以上)
- ・貴重な品が展示されており、たいへん興味深く見させてもらいました。ぜひ、5年に1度くらいの頻度でも再展示をお願いします。(大磯町、来館30回)
- ・沢田美喜さんの人生にとっても心を動かされておりましたので、今回の展示会はととても有り難く思っております。まだまだ沢山の事が澤田さんにとって私たちに知らしめる資料があるかと思えます。又、次の展示会を楽しみにしておりますので是非開催を望みます。(平塚市、女性67歳、来館2回)

※アンケートへのご協力ありがとうございました。

#### 資料整理の軌跡

##### <ロバート氏の資料調査概要>

○ハワイ大学ロバート・A・フィッシュ氏が横浜国立大学名誉教授松本先生のついで、ESH内の資料を調査実施。

##### <大磯町史編集室資料調査概要>

○平成3年～20年：澤田美喜関連資料調査整理実施

※ESHの資料整理は平成14年から開始、その際ロバー

ト氏整理済資料を「ロバートファイル」として一部引き継ぐ。蔵に保管されているロバート氏整理済資料「KSS(旧澤田室1～20以上)」段ボール内のファイルはロバートファイルには引き継がれなかったもの。

##### <鳥取敬愛高校資料調査概要>

○平成12年8/8、9：ESH初訪問、ママちゃまハウスの資料借用を依頼、ロバート氏が調査中という理由で澤田氏に断られる。

○平成16年8/7～9：ESH調査。ロバート氏の調査がママちゃまハウスに及んでいなかったことを知り、藤村美津前園長に再度資料借用を依頼、理事会に諮ってもらう。

○平成16年11/11、12：敬愛高校にて藤村前園長との交流会、ESHの資料を持参してもらう。

○平成17年7/30、31：ESH調査

○平成17年冬：研究をまとめる。

##### <鳥取県立公文書館資料調査概要>

○平成17年度：澤田廉三・美喜関連資料整理調査開始

○平成20年秋～冬：企画展・巡回展開催

○平成21年度：資料集『澤田廉三と美喜の時代』の刊行に伴う最終的な調査実施(なお、資料返却は、震災の影響により平成23年7月までかかっている。)

##### <大磯町郷土資料館資料調査概要>

○平成23年5月～10月：澤田美喜関連資料調査実施

○平成23年夏：蔵の存在を知り、蔵の調査実施

○平成23年10/22～12/11：企画展「澤田美喜－人生はどんな色にでも塗り替えられるキャンバス－」開催